

# 家庭学習プリント【6年理科No.1】(教科書p. 6～9)

6年( )組( )番 名前( )

○ 学習の準備(じゃがいも・ホウセンカ)《p. 9参照》

## 【じゃがいもの植え方】

① 土を深く耕して(肥料)を入れ、約(10)cmの深さに

(たねいも)を植える。

② じゃがいもが約(5)～(10)cmにのびてきたら、(成長)の

よいものを残して育てる。

(根元)をおさえて、ねじりながら引きぬく。

## 【ホウセンカの植え方】

① 花だんを耕して(肥料)を混ぜ、1か所に(3)～(4)つぶずつ

約(15)cmの間を空けて種子をまく。

種子がかくれる程度に(土)をかける。

② 葉が(4)枚ほどになったら、(成長)のよいものを残して育てる。

○ 私たちの生活と環境《p. 6～8参照》

p. 6・7のイラストを見ながら、私たちの生活がどのように環境に関わっているのか、6年間の学習を通して、気づいたことを書こう。

動物は植物を食べている。

太陽光や水、風など、自然の力を使って発電している。

自動車の出す排気ガスは、環境にはよくない。

人は海で魚をとったり、牧場で牛や豚を育てたりして食べている。

雨が降って川に流れ、海に行きつく。

下水処理場では、汚れた水をきれいになっている。

など

家庭学習プリント【6年理科No.2 ものの燃え方①②】(教科書p.10~13)

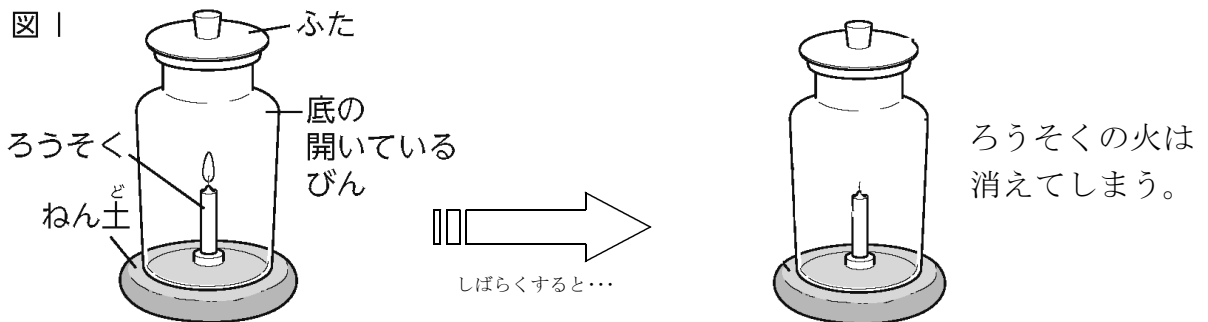
6年( )組( )番 名前( )

○ ものの燃え方と空気《p.11参照》

問題 ろうそくが燃えるときの空気の様子を調べよう。

1 予想しよう

図1のように、底の開いているびんの底をねん土でふさぎ、その中でろうそくの火を燃やす。ふたをしてしばらくすると、ろうそくの火は消えてしまう。



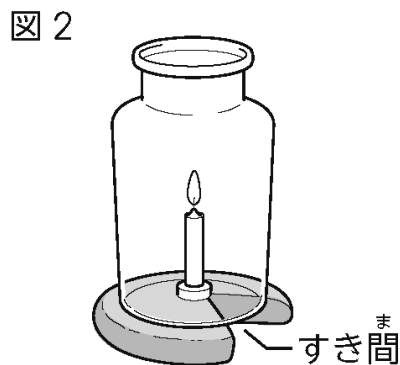
ろうそくが燃え続けるためには、どのようにすればよいだろうか。

ふたをあける。  
うちわであおいで、新しい空気を入れる。 など

2 確かめよう①《p.12参照》

図2のように、下のねん土を切りとってすき間をつくり、ふたを外すと、ろうそくの火はどうなるだろうか。教科書で結果を調べよう。

また、なぜそうなったのか、その理由も考えよう。



結果 燃え続ける

理由

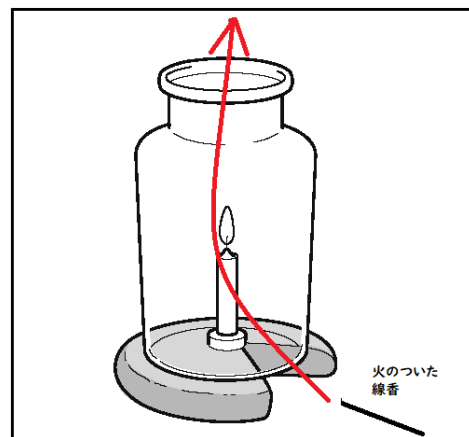
新しい空気が入ってきているから。

あたたかい空気は、上の方に行くので、空気が下から入って上に出ていくから。

など

3 確かめよう② 《p. 13参照》

火のついた線香をすき間に近づけたときの、線香のけむりのうごきを、右の図にかき入れよう。



4 まとめよう 《p. 14参照》

図1と図2それぞれの空気の様子について、図と言葉でまとめよう。

|                | 図1                                       | 図2  |
|----------------|--|---|
| 空気の様子を図にかき入れよう |  |   |
| 空気の様子を言葉でまとめよう | <p>空気は入ってくることも出ていくこともできないので、入れかわらない。</p> | <p>空気はびんの下から入って上から出ていくことができるので、入れかわる。</p> |

☆ ( ) の中にあてはまる言葉を書き入れよう

ものが燃え続けるには、( 空気 ) が ( 入れかわる ) 必要がある。

家庭学習プリント【6年理科No.3 ものの燃え方③④】(教科書p.14~16)

6年( )組( )番 名前( )

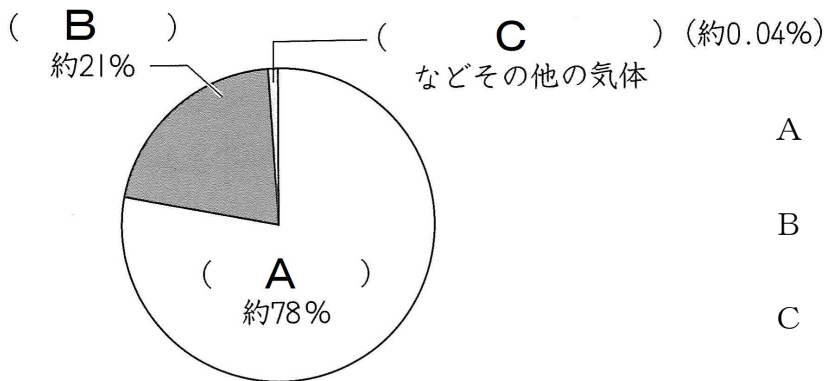
○ ものの燃え方と空気

問題 ちっ素、酸素、二酸化炭素にはものを燃やすはたらきがあるのだろうか。

1 知ろう《p.14参照》

空気はちっ素、酸素、二酸化炭素などの気体からできている。

グラフのA・B・Cにあてはまる数値を( )に書き入れよう。



A 約 ( 78 ) %

B 約 ( 21 ) %

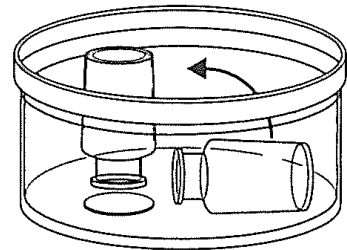
C 約 ( 0.04 ) %

2 実験準備をしよう《p.15参照》

気体ごとに集める方法をまとめよう

① ( 水 ) の中にびんを入れ、右の図

のように口を ( 下 ) にして立てる。

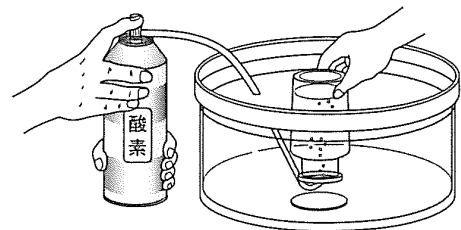


② ちっ素、酸素、二酸化炭素を

それぞれ別のびんに集める。

( 水 ) の中で気体を集め、

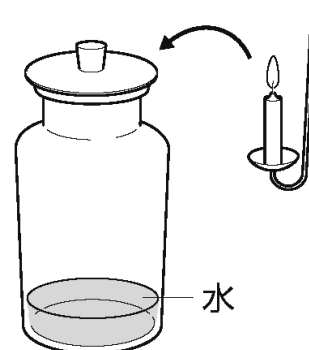
( ふた ) をしてから、水から出す。



3 確かめよう《p. 16参照》

火のついたろうそくを2の方法で集めた気体（ちっ素・酸素・二酸化炭素）の中に入れたときのろうそくの様子を、表にかき入れよう。

| 気体    | 燃えたかどうか<br>(○・×) | びんに入れたときのようす              |
|-------|------------------|---------------------------|
| ちっ素   | ×                | すぐに消えた。                   |
| 酸素    | ○                | ほのおが大きくなって、明るくなった。やがて消えた。 |
| 二酸化炭素 | ×                | すぐに消えた                    |



4 まとめよう《p. 16参照》

( )の中にあてはまる言葉を書き入れよう。

- ・空気中に一番多い（ **ちっ素** ）の中では、ろうそくは燃えない。
- ・空気中でろうそくが（ **燃えつづける** ）のは、空気中に（ **酸素** ）があるからである。
- ・ものが燃えるには（ **酸素** ）が必要である。
- ・ふたをしたびんの中でろうそくが燃え続けなかったのは、（ **酸素** ）がなくなったからだと思う。

☆ ( )の中にあてはまる言葉を書き入れよう

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・（ <b>酸素</b> ）には、ものを燃やすはたらきがある。</li> <li>・（ <b>ちっ素</b> ）や（ <b>二酸化炭素</b> ）には、ものを燃やすはたらきがない。</li> </ul> |
|--|

# 家庭学習プリント【6年理科No.4 ものの燃え方⑤】(教科書p. 17・210・214)

6年( )組( )番 名前( )

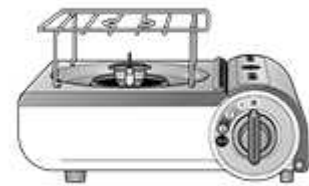
○ 深めよう《p.17参照》

- 1 空気のあるところとないところで木を熱してみよう。
  - ・木や紙を空気中で熱すると、( **ほのお** )を出して燃え、( **炭** )や( **灰** )になる。
  - また、空気がないときは( **炭** )になる。

2 実験用ガスこんろの使い方をまとめよう。《p.214参照》

《準備》

- ・( **平らな安定した** )場所に置く。
- ・ガスボンベを切れこみに沿ってカチッと( **音** )がするまで入れる。
- ・( **ぬれぞうきん** )を用意する。

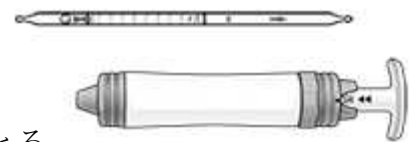


《注意すること》

- ・火がついたままガスこんろを動かしてはいけない。
- ・火を消した後も、ガスこんろやガスボンベには、冷めるまでさわらない。

《手順》

- ① 火をつける
  - ・火力を調節するつまみをカチッと( **音** )がするまで「点火」の方に( **回し** )て、火をつける。
- ② 火力を調節する。
  - ・( **つまみ** )を回して、火力を調節する。
- ③ 火を消す
  - ・つまみを( **「消」** )まで回して、火を消す。
  - ・火が消えていることをしっかり確かめる。
  - ・( **冷め** )たら、ガスボンベを外す。
  - ・( **もう一度** )つまみを( **「点火」** )まで回して、中に残ったガスを燃やす。



2 気体検知管の使い方をまとめよう。《p.210参照》

- ① チップホルダで検知管の( **両はし** )を折り取る。
- ② 矢印の( **ない** )ほうのはしに、( **カバーゴム** )をつける。
- ③ 検知管の( **矢印** )を気体採取器に向け、差し込む。
- ④ 検知管に書かれている、とりこむ気体の量を確認する。その量が示す印が( **赤い線** )と合うように、ハンドルを回す。
- ⑤ びんなどに検知管を入れ、( **ハンドル** )を一気に引いて固定する。そのまま決められた時間待つ。
- ⑥ 検知管をとり外し、( **色が変わった** )ところのめもりを読む。